☆題字の樹木イラストは、環境の三大要素「水・緑・大気」をイメージ

府中かんきょう市民の会

NPO法人　府中かんきょう市民の会会報
2023年 新年号 1月11日(水)発行 通巻87号
発行人　小西 信生（府中市四谷6-19-20）
TEL 080-5646-5524
編集人　葛西 利武
（府中市市民活動センタープラッツ登録団体）

市民協働（NPO・事業者・市）

府中崖線を歩き、「緑地保全」のあり方を知ろう！

再開催の経緯

2022年11月3日（木、㊗）9:15～11:40、西府崖線にて上記標題の活動を行った。天候快晴。参加者は一般4人、当会会員13人、講師2人の計19人。資料は7点。講師は公園緑地課課長補佐須田茂也氏と第一造園（株）仁平(ニヘイ)豊彦氏にお願いした。

当初、本企画は「わき水まつり／夏休み特別企画」としていたが、7月31日㈰は天候（熱中症）とコロナ禍の問題があり中止とした。しかしながら、本企画の主題は 「市民協働」にあるため、11月26日㈯～27日㈰開催の「市民協働まつり」と連携して再度企画することになった。

本宿町緑地でのお話し。㊨縞シャツ須田講師、㊧紺色ジャンパーは仁平講師。手前は、土留め用の石組み鉄籠フトンカゴ。蛇篭ともいう

須田氏と仁平氏のお話し

(1) まず、最初の本宿町緑地では「本宿町緑地の植生管理方針」をテーマとする須田氏のお話し。

本宿町緑地は小規模な樹林地でありながら、自生の樹木が見られる。従来の緑地管理では、高木剪定・下草刈りなどは行われていたが、樹林地または崖線管理としては景観や植生管理までは手が回らない。

本宿町緑地は急傾斜のため、強度な下草刈りを実施した結果、裸地化し土の流出が起こるようになってしまった。しかし、2022年3月に土の流出防止のため、フトンカゴ（＝蛇篭／ｼﾞｬｶｺﾞ）を設置し、傾斜にはササの根が入った土嚢を積み上げることで改善措置を行った。

今後の主な保護管理方針は以下3点。①下草管理②高中木管理③植生管理。4月～6月の植生管理では珍しいところでタツナミソウ・ヒメウズ・ヒカゲスゲなどが見られた。今後の管理で新しい植物がみられる可能性はまだまだある。継続することが大事、とのこと。

(2) つぎの仁平氏からは、「緑地保全のあり方について」というテーマでのお話しがあった。まず、「府中市緑の基本計画2022」（2019年度～2028年度までの10年間の指針／A4判、全119ページ、2022年1月発行）には、地域における緑の拠点としては西府町緑地（府中崖線）、四谷樹林地周辺、武蔵台公園が記されている。また、「水と緑の軸」としても府中崖線が記されている。いずれにしても、「府中崖線」の重要性が示されている。

それを前提とした新しい取り組みとして、「市民と協働での植生管理」があり、指定管理者制度とコミュニティーガーデンにも話が及んだ。

ちなみに、コミュニティガーデンは「地域の庭」と訳されて、一般の公園とは大きな違いがある。初期の段階で多少行政の支援を受けることはあっても、場所の選定その後の企画・運営まですべて住民が自主的に責任をもって行うことを基本とする、極めて先進的なシステムだ。

西府崖線プロムナード

本宿町緑地での講師のお話しを終えて、いくつかの質疑応答の後、西府崖線を散策した。コースは以下、カッコ内は各説明担当者。カッパ池（浅田）→日新町花壇「ジャコウアゲハ友の会」（押切)→あずまや樹木紹介（竹内)→バイオネスト看板（葛西）→西府町湧水と湧水池（佐藤、竹内）→西府町緑地花壇（設楽）→御嶽塚古墳（小西）。御嶽塚古墳で11:40に解散。

終了後、参加者から、各担当者が詳しく説明したことへの感謝の便りが複数寄せられた。　（葛西利武）

日新町花壇での花とジャコウアゲハの説明。押切葉子さん（左）

西府町湧水で資料をもとに説明する佐藤智恵子さん（中央）

<「府中崖線」と「西府崖線」の呼称について>

府中市を東西に、府中崖線と呼ばれる河岸段丘が西は立川・国立あたりから府中を通って、調布・狛江まで約16㌔に及んでいる。このうち、特にJR西府駅と西府町周辺の崖線を地元の方々は西府崖線と呼んでいる。

田んぼの学校2022／3回目

稲刈り・はさ掛けの巻

（耕地の会）
横山優斗

- 日時／2022年10月2日㈯ 8:30〜10:50
- 場所／東京農工大学 本町農場にて
- 天候／快晴
- 参加者60人／生徒20人(3人欠席)
  保護者21人
  東京農工大学「耕地の会」11人
  府中市役所 環境政策課1人
  府中かんきょう市民の会7人

黄金色の田んぼを見つめる参加者

台風も過ぎ去り、雲一つない久々の快晴となりました。10月2日、田んぼの学校第3回「稲刈り・はさ掛け」を開催することができました。当日は30℃近くになるとの予報もあり、みんな帽子をしっかりと被り暑さ対策はばっちり。

9時になり開式の挨拶と諸注意が伝えられます。田んぼは水を抜いてあるものの、まだぬかるんでいるので注意が必要とのこと。気が引き締まります。

ストレッチを終えいよいよ稲刈りが始まります。5月に植えた青々しい苗はいつしか自分の背丈を超え、ついに穂は黄金色に輝いていました。その景色に子どもたちは目を輝かせました。今回は二手に分かれ、稲刈りとはさ掛けを同時並行で進めます。40分程したら途中で役割を交代し一致団結して作業します。

豊穣（ホウジョウ）の秋、黄金色のなかでの稲刈り

まずは稲刈り担当のみんなの出番です。手鎌を持って田んぼに入り、株元を狙って刃を入れます。あれ、思うように刈れません。頭のなかでは素早く武士のように刈っている姿を想像していたのに。こうなったら意地でも切ってやる。

自然と口からは「おらおらおら」と自身を鼓舞する声が出ていました。するとどうでしょう。先ほどまでなかなか切れなかった稲がみるみるうちに倒れていきます。声に出したおかげでしょうか。他のみんなも後に続き、勢いよく刈っていきます。気づけば背後には一面ぬかるんだ水田と綺麗に刈り残された株元のみがありました。その壮観な景色に子どもたちはみな感動、さらに力がみなぎります。

稲刈り

はさ掛け

はさ掛けに、しばし魅入る

はさ掛け担当のみんなも大忙し。次々と稲が刈り取られて、ひもで束ねるのが間に合いません。お父さんやお母さんの力も借りて総出で結っていきます。5〜6束の稲はさすがに太くてまとめるのが難しいです。

作った束ははさに掛けて天日干しにします。自分の背丈ほどに大きく育ち黄金色に輝いた稲がきちんと結われ干されているのを改めて眺めます。その光景には自分たちの努力の結晶が詰まっており誇らしく感じます。

田んぼには、稲以外にもいろいろと…

田んぼには稲以外の生物もいました。「あ！　ヤゴだ！」虫好きの少年はその茶色のたくましい姿に興味津々。「これは稲じゃなくてヒエだね」スタッフらに教えてもらい刈る手を止め、再び稲を探します。ヒエは稲と密になって育ってるので刈った稲の束に混じってしまうこともありました。

現代では機械化され、手で稲を刈ることは稀になりました。また化学農薬が使われている水田が多いので稲以外の雑草が伸びているところもあまり見かけません。今回のような作業は子供たちにとってとても貴重な経験になったかと思います。今回は鎌を使いましたが、全員怪我なく終えられてとても嬉しく思います。

次回は10月23日、「脱穀・もみすり・修了式」

次回は10月23日、最後の「脱穀等」です。採れた稲がどんなお米になるか楽しみですね。

脱こく
修了式

田んぼの学校2022　無事終了

小西信生

稲刈りが終わった10月2日、全員で記念撮影。
修了証にも印刷

稲づくりに体験に参加した小中学生の生徒と、その保護者の方々の積極的な参加・協力もうれしいものでした。

市民協働の具体的な例としての活動

この田んぼの学校は、東京農工大学と府中市と府中かんきょう市民の会が、18年前から続けている事業です。

平成27年3月の大学と市との「協働・連携に関する相互友好協定」でその位置づけを強化してきたものですが、今後も同様の活動を続けていくには、それなりの努力と改善が必要となりそうです。

＜参加者54人＞
- 生徒／17人(6人欠席)
- 保護者／19人
- 耕地の会／2人
- 府中市役所／3人
- 府中かんきょう市民の会／13人

＜脱こく・修了式スケジュール＞
①～8:30～ 検温、受付相談 ※以下、適時水飲み休憩あり
② 9:00～ スタッフ挨拶、ストレッチ
③ 9:10～10:30 脱こく
④ 10:40～修了式
⑤ ～11:30 修了式後解散

田んぼの学校、第4回「脱こく・修了式」を本町農場にて2022年10月23日㈰秋晴れのなか開催し、今年で15回となった田んぼの学校2022を終了しました。

当初は「脱こく・もみすり・修了式」の計画でしたが、もみすり機不調のため、作業は脱こくだけとしました。修了式は各人に修了証とともに、収穫した米(イクヒカリ)を手渡しました。

例年どおりにはいかなかった2022年度

新型コロナウイルス感染症対応で2年間の間隔を空けて開催した、今回の田んぼの学校は、まだ継続するコロナ禍への対応、30℃以上が常態となりつつある夏期の熱中症対応といった全国的な課題に加え、秋には台風により第3回稲刈りのスケジュール変更、田んぼを使わせていただいている東京農工大学本町農場内の建物の全面改修工事による一部立ち入り制限など、多くの課題をクリアしながらの活動でした。

事業は当会スタッフと共に、大学の学生サークル耕地の会の学生のみなさん、大学の農場担当の職員の方の支援があって、無事に終わることができました。

お父さん(中央黒シャツ)に助けてもらい、脱こく

小西理事長から修了証をもらう生徒

野草班 3年生

第五小学校での環境学習

田中香代子

2022年10月19日(水)午前8時半過ぎ、モコモコの羊雲が浮かんだ青空のもと、3年1組の児童13名と五小周辺の秋の野草観察に出発しました。5月に見た野草がどう変化しているか、気になるところです。まず、見つけたのは校内で春に花が咲いていたツユクサが種をつけていたこと。

また、運動場の芝生で何度踏まれても元気な葉のオオバコに皆が関心。「花はないけど、強そう」と数人がかがみこみ、葉っぱを引っ張り合う相撲が始まったことなど、なかなか歩をすすめるのは難しそうですが、児童たちの好奇心は面白いものです。

児童たちとの楽しい会話

西門を出て御嶽塚へ。ネムノキに沢山種がついているのに気づき早速種拾いが始まりました。エノキにも実が。「オレンジ色の実は鳥たちが大好きだよ」と話すと、試しに食べようとする児童に「ダメ、鳥たちだけだよ」と声かけ。ハート型で黄色く紅葉したカツラの葉も沢山落下していました。

「ウワ〜かわいい」と女子たちは大騒ぎ。「その葉っぱの匂いをかいでごらん」、「なんか、果物の匂いがしない？」と私がいうと、「花かも？」、「なんか、食べ物の匂い？」の答え。さらに私が「煮ものの匂いかな？」というと、「あ〜いい香り、自然のキッチンだ！」との面白い答えが返ってきました。

西府緑地の花壇に大きな株のススキがあります。黄色の小さな雄花をぎっしりとつけた若い穂をルーペで一人一人に見せたところ、「ススキの花だー」とほとんどの児童が目を丸くしてビックリした様子でした。

田中講師(右から3人目)がカツラの木の下で、カツラの葉っぱのお話し

倉町講師よるわき水のお話し。柄杓の水を手にかけてもらい、その冷たさを実感

出発前の、校長先生のお話し(左の白シャツ)。右は浅田講師

金田講師によるドングリなどのお話し

崖線(ハケ)での様々な体験

やっと崖線にでました。緑が広がっています。数本のヤマノイモに芋がついています。「その芋のご飯、おいしいよ」、「へえ、食べたことないな〜」と皆で芋を観察していると、すぐ近くのフェンスに茎のトゲで他の植物に絡みつくカナムグラが茂っていました。「少し触ってみてごらん」、「痛い、痛いー」と大騒ぎ。花も咲いていましたが、種も出来ています。もうすぐやってくる冬鳥のアオジが大好きな種です。

やがて湧水地に。年中涸れることなく水温も約17,5度ある湧水、全員が触れて「冷たくない〜」、「滝みたいだー」と。府中市唯一の湧水、大切に守りたいものです。

水辺のジュズダマが沢山実をつけていました。用意していたお手玉や古くからの遊び方を色々話しましたが、児童たちの興味のほどは・・・それより用水の淵に生えていたヤブミョウガを見つけ「ウワ〜きれい」。

夏には白い花が、今は枝に沢山つけた5ミリほどの青い玉が陽に照らされて光り輝いています。まるで宝石のようです。「玉を持ち帰って、お母さん見せていい？」、「1個だけだよ」。すぐ近くでヒナタイノコズチが種をつけ、珍しい矢じり形の葉のオモダカも茂っていましたが、児童たちのヤブミョウガに対する興味はなかなか衰えません。

楽しい時間はアッという間に‥

児童たちと散策した自然観察(野草中心)の楽しい時間はアッという間に過ぎ去り、帰校したのは10時10分。もう一組の3年3組は10時30分出発、帰校が12時05分。なお、前週の10月12日(水)には、3年2組と4組が開催されていました。

樹木班 3年生　四谷小学校での環境学習

金田 邦男

10月4日、5日に実施、129人参加

2022年10月4日㈫、5日㈬に府中市立四谷小学校の3年生を対象にした環境学習が行われた。4日は晴天になり、8:40～12:15に2クラスを2コマに分けて予定通りに実施したが、5日は雨天予報があり、曇り空のなかで、8:40～10:15に2クラスをまとめて実施した。

児童数107人、担任の先生4人、当会の講師延べ18人の合計129人の参加があった。ここでは樹木班の活動を中心に報告する。

校庭で出発準備の児童たち

環境学習が年3回に

四谷小学校の環境学習は、昨年までの年2回から今年度は1･2･3学期の各学期に1回ずつ行うことになった。

1･2学期は各クラスを昆虫･野草･樹木の3つの班に分け、10名程度の児童に2～3名の講師が付いてそれぞれのフィールドでの観察を行い、3学期にはクラス単位で30名ほどの児童が講師とともに学校から四谷橋上まで歩きながら野鳥の観察を行うことにした。

樹木班のテーマは「秋はみのりの季節」

樹木班では学校に近接している「西府緑地公園」に見られる樹木の実を探し観察した。

まず、校内で「樹木とは」「針葉樹と広葉樹」「常緑樹と落葉樹」について、校庭のアケボノスギ＝メタセコイア（落葉針葉樹）、ヒマラヤスギ（常緑針葉樹）、サクラ（落葉広葉樹）、ヤマモモ（常緑広葉樹）を例にして5月の環境学習で学んだことを確認し、公園に向かった。

5種類の「どんぐり」の実を拾う

公園には5種類の「どんぐり」が実をつけているので、実を拾いそれぞれの特徴を学んだ。まず、大きく細長い実をつけるマテバシイは昨年の花が今年の実になるのだが、5月の観察で昨年の花のあとが小さな実になりその先に昨年伸びた葉が付き、さらにその先に今年の花が咲いている様子をスケッチしているので、10月にはしっかりした大きなどんぐりに育ったことを実感できた。

さらに、小さく丸い実のシラカシ、実がカプセルに入ったスダジイ、大きな丸い実がぼつぼつのお皿を被ったクヌギ、小さく細長い実のコナラと全部で5種類のどんぐりを拾い、実やお皿の違いなどを確認した。

その他の木の実、紅葉のしくみ

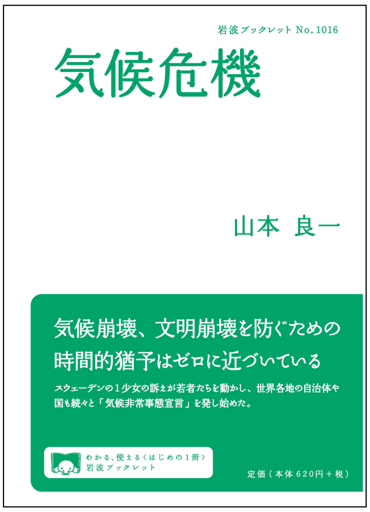
次に、5月の学習で幹の太さを測り木の年齢を計算したクスノキにも実が付いており、葉と同じ匂いがすることを確認した。他にもハナミズキの赤い実や「羽根つき」の羽根の黒い部分になるムクロジの実、ヘリコプターのように飛ぶモミジの実を見つけることができた。

また、モミジやハナミズキの色づき始めた葉を見ながら、葉の中の色素の変化による紅葉（黄葉）のしくみについても学ぶことができた。

子どもたちは5月に学んだことをよく覚えており、質問に元気に答えてくれたことは講師としての喜びだった。また、引率した担任の先生が熱心に関わってくれたことにより、子どもたちの興味も深まることができた。

金田講師は中央左の茶色の帽子

モミジの木のそばで、モミジが種を飛ばすしくみなどを観察



書評『気候危機』山本良一著

発行：岩波書店　松壽 孝樹

大袈裟な書名と思った方は読み終わったとき認識が変わるだろう。本書は温暖化を科学で捉えた歴史を紹介することから始まる。我々が生きるこの文明が今後も続くのか、暮らしぶり、それを支える産業の在り方を反省を込めて述べている。

「数十年に一度の大雨」「観測史上、最高の気温」という言葉を毎年聴く。突風による建物の倒壊も国内外で起きている。これらを観測データを引用して紹介している。今を変えようと行動を始める人がいる。本書はそれらの人の行動を気候ストライキと表現する。気候ストライキが世界に広がる端緒となった、スウェーデンの15歳の少女グレタ・トゥンベリが国会前で行った行動が、自国ばかりでなく欧米をはじめ世界に広がる過程の記述は、世界の人々が気候変動を生命の危機と気づく過程でもある。

本書は気候危機によって命の危機に直面する恐れのある、あなたにこそ読んでほしい。

「SDGs」＆活動紹介

第8回 2022市民協働まつりに参加

浅田多津子

身近な環境を考え、活動内容をお知らせし、仲間を増やすことを目標

今年度も参加するにあたって、「ブース展示」11/26(土)の一日参加では、身近な環境を考える機会を広げること、活動内容をより多くの方々に知らせし、活動する仲間を増やすことを目標に行なった。特に他団体と交流できるこの機会には、ブースで活動紹介をする担当者は「つながる名刺※」を渡すなどでさらに連携を進めることも視野に当日を迎えた。

第8波のコロナ感染者が増える中であったが、必ず受付を通して検温と手指消毒を求め記名の上、来場して頂くことを徹底し、会場にいる誰もが必ずリストバンドを付ける方法を取った今年の市民協働まつりであった。

企画運営委員会には計9回参加し、実行委員会は計4回 (9/8、10/6、11/10、12/15)と昨年度のリアル＆オンライン会議開催から、ようやくface to face のすべてリアル会議となった。前日の会場設営、26日の「ブース展示」、27日の一時間ボランティアを含め当会会員から計11名が参加した。※色々な方と交流することを目的とする名刺

当会のブース

ブース展示では、「身近な環境について一緒に考えよう！」と当会独自11の「SDGs」の活動内容を説明

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）は、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された，2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標（17のゴール・169のターゲット）。

当会独自、SDGs11の目標（3、4、5、6、7、11、12、13、14、15、17）の詳細は右の表線内を参照

大気、水質、緑地、農地、ごみ、気候変動、生物多様性、環境教育、災害の9項目のシール貼り

来場者には、「気になる環境」の項目について模造紙にシール貼りをしてもらった。項目は、大気、水質、緑地、農地、ごみ、気候変動、生物多様性、環境教育、災害の9項目。一人に4シールを渡すとそれぞれの項目にどんどんシールが増えていく(㊤写真)。

当会では「SDGs」17のうち、11の「SDGs(㊧㊦写真)」を実行していることを説明しながらのシール貼りである。午前中には約90名が、午後からは約120名の方々がシール貼りに参加。一日で計約210名の来場者となった。

ベビーカーを押して親子で参加する来場者も多く、子どもも参加できる企画とすることができた。親が子どもに環境についての説明をする場面もあり、環境問題に多くの方々が関心を持っていることを実感した。

密にならないようにと、パネル展示（西府崖線保全活動、援農ボランティア活動、田んぼの学校、小学校の環境学習、絶滅危惧種の保護など）前に分散するようにも工夫した。緑が多く東京都の名湧水57選の湧水がある西府崖線について聞いてみると、まだまだ知名度が低いこともよくわかった。当会の説明者が不足する時間帯があり、もう少し人員を増やす必要があったと振り返る。

入口には、植物「シュロ」の葉から作るバッタづくりの実演コーナーを設けた。大人にも子どもにも毎回好評の企画である。作ったシュロバッタはすべて無料で来場者に差し上げた。動画の活動上映コーナーも一日フル稼働した。

3すべての人に健康と福祉を、4質の高い教育をみんなに、5ジェンダー平等を実現しよう、6安全な水とトイレを世界中に、7エネルギーをみんなにそしてクリーンに、11住み続けられるまちづくりを、12つくる責任つかう責任、13気候変動に具体的な対策を、14海の豊かさを守ろう、15陸の豊かさも守ろう、17パートナーシップで目標を達成しよう